

本科 2 期 10 月度

解答

Z会東大進学教室

高2東大世界史



17章 19世紀ヨーロッパ諸国の動向 1

問題

【1】

解答

問1 (1). ス (2). エ (3). ケ (4). サ (5). コ (6). タ (7). ウ

問2 (a). 人権宣言 (b). 2 (c). アレクサンドル1世 (d). クリオーリョ
(e). 東方問題 (f). シャルル10世 (g). オランダ (h). 国立作業場
(i). フランクフルト

解説

問1. (1). フィヒテはドイツ觀念論の哲学者で、ベルリン大学初代総長を務めた人物。「ドイツ国民に告ぐ」演説でナポレオン軍に対抗するドイツ民族意識の高揚を促した。

(2). 「5月3日（5月3日の処刑）」はフランス軍が抵抗するスペイン人を処刑する場面を描いた作品。

(3). 彼は「黒いジャコバン」とあだなされた人物。

(4). バイロンはギリシア独立戦争に従軍した。しかし彼はギリシアに渡ってすぐに病死してしまった。

(5). バイロンと同じくギリシア独立戦争に刺激されたロマン派画家で、この戦争を題材に「シオの虐殺」を描いたのがドラクロワ。彼は七月革命を題材に「民衆を導く自由の女神」を描いた。

(6). 七月革命（1830）の影響を受けて「青年イタリア」を結成したマッティーニは、二月革命（1848）を契機にローマ占領とローマ共和国建国を行った。

(7). ウィーン体制崩壊後に、オーストリア支配下のハンガリーで民族運動の中心となったのがコシュート（1802～94）。ベーメンで民族運動の中心となったのはパラツキーである。コシューシコ（1746～1817）はポーランドの軍人で、アメリカ独立戦争に参加し、帰国後はポーランド分割に抵抗した。混同に注意すること。

問2. (a). フランス革命勃発直後の1789年8月26日に、ラ＝ファイエットらが起草した人権宣言が採択された。

(b). ドイツ地域はドイツ連邦に再編されたので、1は誤り。北イタリア・ロンバルディア地方はオーストリアが併合したので3は誤り。イギリスのキプロス島領有は1878年のベルリン会議で決定するので、4は誤り。

(c). 神聖同盟にはイギリス・ローマ教皇・オスマン帝国以外の全ヨーロッパ諸国が参加した。

(d). クリオーリョに対して、白人とインディオ（先住民）の混血をメスティーソと呼ぶことまで覚えておくこと。

(e). 19世紀に力の衰えたオスマン帝国領土内で、多くの民族問題が発生した。この民族問題に起因して列強が勢力拡大をはかった状況を西欧から見た視点で「東方問題」と呼ぶ。

(f). ウィーン議定書でフランスではブルボン王家が復活した。まずルイ16世の弟である人物がルイ18世として即位した。その後に、ルイ18世の弟がシャルル10世として即位した。

(g). ウィーン議定書で南ネーデルラント（現在のベルギー）はオーストリア領からオランダ領に変更された。1830年の七月革命の影響から南ネーデルラント地域はベルギーとしてオランダ支配から独立した。

(h). 社会主義者の主導で設立されたが、1848年4月の選挙で社会主義勢力が惨敗すると、国立作業場も閉鎖された。これに対して社会主義者・労働者が起こした事件が六月暴動である。

(i). フランクフルトでドイツ連邦から普通選挙で選ばれた議員により開かれた。

【2】

解答

- 1.ハ 2.タ 3.ナ 4.セ 5.ケ 6.テ 7.ト 8.ア 9.ヒ
10.カ

解説

1.七月王政期の支配者を選べばよいから、答えはルイ＝フィリップとなる。彼は国民から“株屋の王”と呼ばれていたが、これは問題文の「金権政治」という部分に合致する。また選択肢の中にも紛らわしいものは存在しない。

2.二月革命の背景を考えた上で「農民や市民らを中心とする」一派を選ぼう。共和派が正解となる。

3.フランス革命によって滅亡した王朝名を答えればよい。基本的な問題。

4.空欄2から、ここにあてはまるものは「共和派」以外の一派となる。また問題文を読み進めていくと、この空欄にあてはまる一派は二月革命後の主導権争いで共和派に敗れたとある。ここで臨時政府に参加した社会主義者らは1848年の四月普通選挙で大敗したことを思い出そう。このため社会主義者は排除され、稳健な共和派による政府が成立した。よってこの空欄には社会主義者が当てはまることがある。

5・6.二月革命の背景となる選挙法改正運動について思い出せばよい。ルイ＝フィリップの七月王政期では、1830年に憲法が制定されているが、これによって選挙権の制限資格が引き上げられてしまった。このため選挙法改正運動がフランス各地で起こったわけだが、その中心となったのが共和派から正統主義者たちまで幅広い層が参加した改革宴会である。

7.19世紀のヨーロッパの美術史の流れが捉えられていれば、そんなに難しい問題ではない。選択肢として挙げられている画家は「ミレー」「コロー」「クールベ」の3人で、問題文によるところの空欄7に当てはまる人物は「農民生活や社会主義者ブルードンの肖像画などを描いている」とある。ここで3人の画家について考えてみると、ミレーとコローは、ありのままの素朴な農村や自然の風景を主題とする自然主義絵画を描いた人々であるが、クールベは現実の自然や人間の生活を客観的に描写することをめざした写実主義絵画を描いた。写実主義絵画はその観念から社会主義運動と連動したものも多い。よって問題文「社会主義者ブルードンの肖像画」という部分からクールベを正解として絞りこむことができる。なお、コローは1796～1875年を、ミレーは1814～75年を、クールベは1819～77年を生きた人物であるから、3者ともに七月革命、二月革命を経験した同時代人ということになる。

8～10. フランス二月革命の影響がヨーロッパ各国に広まった「諸国民の春」について問われている。オーストリアの支配地域では、ハプスブルク家のお膝下のウィーン、ハンガリー、イタリア、ベーメンで民族運動が起こっているので空欄8にはハンガリーが当てはまる。また、ベルリン暴動（三月革命）で憲法制定を約束したのは、ベルリンを首都とするプロイセンの国王フリードリヒ＝ヴィルヘルム4世である。他に語群の中でプロイセン王として挙げられているのはフリードリヒ2世がいるが、彼は18世紀の啓蒙専制君主であるので、すぐに正解が絞り込めるだろう。さて最後に、二月革命によって崩壊した「ヨーロッパの国際政治秩序」であるが、これはいうまでもなく、ナポレオン戦争後に正統主義に基づいて構築された保守反動のウィーン体制が解答となる。また語群の中にも紛らわしいものはない。

MEMO

18章 19世紀ヨーロッパ諸国の動向2

問題

【1】

解答

- 問A 1. サルデニヤ 2. カルボナリ 3. マッツィーニ 4. カヴール
5. ロンバルディア 6. ガリバルディ 7. 1861 8. ヴェネツィア

- 問B 1. ニース 2. 「未回収のイタリア」

解説

問A. 1. 「サヴォイア家」の王国であること、また後の問題文からイタリア統一運動の中心的存在であったことが読み取れるから、答はサルデニヤとなる。

2. ここにあてはまる秘密結社は「南イタリアで結成された」こと、また「青年イタリア(党)」の前に結成されたことなどからカルボナリをさしていることがわかる。

3. 青年イタリア(党)の指導者であるからマッツィーニが正解となる。これは問題文後述に、いわゆる「諸国民の春」(1848)を受けて彼が「ローマ共和国」を樹立した、とあることからも確認できる。

4. これも超基本問題。イタリア統一の立役者として、サルデニヤ国王ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世とその宰相カヴール、そして彼らに両シチリア王国を献じたガリバルディの3人はしっかりと押さえておくこと。

5. カヴールがナポレオン3世と結んだ密約とはプロンビエール密約(1858)を、「オーストリアに宣戦した」とはイタリア統一戦争(1859)をそれぞれさしている。フランスがヴィラフランカ条約でオーストリアと単独講和してしまったため、この時サルデニヤ王国がオーストリアから得たものはロンバルディアのみに留まった。

6. 4を参照のこと。この時率いた約1000人の義勇軍は千人隊もしくは赤シャツ隊と呼ばれる。

7. ガリバルディが両シチリア王国をサルデニヤ王ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世に献じた翌年の1861年、オーストリア領ヴェネツィアとローマ教皇領を除くイタリア王国が成立した。その時の首都はトリノである。

8. プロイセン＝オーストリア(普墺)戦争(1866)はプロイセン首相ビスマルクが、プロイセン中心のドイツ統一の邪魔となるオーストリアを排除するために行った戦争であり、これに便乗したカヴールはオーストリアからヴェネツィアを獲得することに成功した。さらに残ったローマ教皇領も、これまたビスマルクがドイツ統一のために行ったプロイセン＝フランス(普仏)戦争(1870～1871)の際にローマに駐留していたフランス軍が引き上げたすきに占領し(1870)、1871年にはイタリア王国の首都をローマに遷したのである。ちなみに1865年から71年までの首都はフィレンツェであるから間違えないように。

問B. 1. 1858年のプロンビエール密約で、対オーストリア戦争におけるイタリアへの軍事的援助の見返りとしてカヴールがナポレオン3世に用意したのがサヴォイアとニースであつ

た。1860年にサルデーニャは中部イタリアを併合するが、これと引き換えにフランスにサヴォイアとニースを割譲した。この2都市は現在でもフランス領である。

2. これもよく問われるので絶対に覚えておくこと。“未回収のイタリア”の回収がその後のイタリアの外交政策の重要な課題となり、第一次世界大戦の際に三国同盟に属したイタリアが、その割譲をイギリスに約束されたことで1915年に連合国（協商国）側としてドイツに宣戦することになる。

【2】

解答

問1 ② 問2 ③ 問3 ⑤ 問4 ④ 問5 ② 問6 ④ 問7 ⑤
問8 ⑤ 問9 ④ 問10 ③・④・⑨ 問11 ③ 問12 A ④ B ②

解説

問1～8. ビスマルク外交の総復習である。間違えたところはテキストに戻って復習しておく必要がある。その際におののの同盟について、ビスマルクがどのような状況の下で、何を目的としてその同盟を締結したのか、しっかりと理解しておくこと。

問9. プロイセン＝フランス（普仏）戦争（問題文では独仏戦争となっているが、こちらが一般的な名称である）中の1870年9月、セダンでフランス皇帝ナポレオン3世はプロイセンの捕虜となり、フランス第二帝政は終わりを告げた。そして翌1871年にプロイセン軍はパリに入城し、ヴェルサイユ宮殿鏡の間でドイツ皇帝となる戴冠式を挙行した。これがプロイセンを中心とするドイツ帝国の誕生である。なお、この年の3月にわずか2カ月ながらパリ＝コミューンが成立したことにも注意しておきたい。

問10. ロシア＝トルコ（露土）戦争の講和条約である1878年のサン＝ステファノ条約と、同年のベルリン条約の内容の相違についてはしっかりと理解しておくことが必要である。サン＝ステファノ条約ではルーマニア、モンテネグロ、セルビアの3国の独立が認められ、ブルガリアは領土を大きく増した大ブルガリアとなり、事実上ロシアの保護国となった。このロシア南下政策の成功にイギリス・オーストリアが待ったをかけ、これを仲裁するとしてドイツ帝国首相ビスマルクが開催したベルリン会議の結果、ルーマニア、モンテネグロ、セルビア3国の独立は従来通り認められたものの、ブルガリアは大きく領土を縮小され、ロシア支配下ではなく、オスマン帝国領内の自治国とされた。ビスマルクは“忠実な仲買人”を自称しつつも、その実イギリスの主張を多分に取り入れたのである。ロシア南下政策はここに挫折し、ロシアは以後イランや中国（清）への進出へと矛先を変えた。その結果、東アジアで朝鮮や中国東北地方での利権をめぐって日本と衝突し、日露戦争が起きたことになった。これらの意義をしっかりと押さえておくこと。

問11. ベルリン会議の開催は1878年であるが、これより3年前の1875年にスエズ運河の株式を買収したイギリスの「保守党内閣の総理大臣」を思い出せばよい。

問12. ベルリン会議の結果、イギリスはキプロス島を、オーストリアはボスニア・ヘルツェゴヴィナの保護権を得た。これらはロシア膨張への勢力均衡策の結果である。

【3】

解答

問1 a ウ b シ c ク d エ

問2 1 スティーヴンソン 2 ラダイト 3 「世界の工場」 4 改革宴会
5 国立作業場 6 ユンカー

問3 (あ) エ (い) イ (う) カ (え) ア (お) オ (か) エ (き) ウ (く) イ
(け) オ

解説

問1. a. 「労働者、特に婦人・年少労働者の労働時間を制限する」法律で、「幾度となく制定されて」いるのは工場法である。工場法は何度も制定されているが、その中でも特に空想的社会主义者のロバート＝オーウェンが尽力した1819年の紡績工場法はチェックしておきたい。

b・c. この2つの法律が廃止されたことで、イギリスの自由貿易体制が確立した、と問題文では指示されている。ここから、ここで問われている2つの法律は宗教的なものではなく、経済、特に自由貿易の対局に位置する保護貿易に関わるものであることがわかるだろう。選択肢を検討すると、これに該当するのはクの航海法とシの穀物法なので、この2つを時代順に並べ、1846年に穀物法を、49年に航海法を当てはめればよい。

d. 前述したように、イギリスはヴィクトリア時代（1837～1901）の半ば、19世紀の中頃に自由貿易体制を確立し、1873年の経済恐慌以後、恐慌に対処するために自由貿易から保護貿易へと転向したドイツと対照的に、自由貿易体制を守り抜いた（もっとも自由貿易体制は堅持しながらも、ヴィクトリア時代の後半には、恐慌に対処するためにも、植民地獲得競争に基づく帝国主義政策を推進することになるのだが〔これを自由貿易帝国主義という〕）。ヴィルヘルム1世とビスマルクの尽力により成立したドイツ帝国（1871）では、当初自由貿易体制がとられていたが、問題文にもあるように1873年の経済恐慌の影響から、79年に保護関税法を制定し、保護貿易政策を採った。

問2. 1. 蒸気機関車を発明したのはトレヴィッシュであるが、実用性は薄かった。その後、スティーヴンソンが蒸気機関車を実用化させた。彼は1825年にストックトン・ダーリントン間で初めて旅客列車を牽引することに成功したのである。この5年後の1830年にはリヴァプール・マンチェスター間に世界初の実用鉄道が開通した。

2. 基本問題。「1810年代」に「失業した労働者や職人ら」が展開した機械打ち壊し運動はラダイト運動である。

3. これも基本問題。「圧倒的な工業力を背景として世界経済において～指導的地位を占める」イギリスを表す言葉といえば、「世界の工場」である。

4. 「中小資本家と労働者」が中心となって展開した「選挙法改正運動」における政治集会の名称は改革宴会である。これは宴会を装っていたことから付けられた名前であるが、受験世界史では比較的よく問われる事項なので、注意しておきたい。

5. 重要事項。1848年の二月革命の結果、国王ルイ＝フィリップはイギリスに亡命し、臨時政府が組織された。これには穏和共和主義を探る産業資本家を中心に、少数の社会主义者と労働者が参加していた。政府の労働委員会（リュクサンブル委員会）は労働者の地位改善をめざして国立作業場（国立工場）を設立したが、土地を得た農民がこれ以上の革命の進展を恐

れ、四月普通選挙で社会主義者が大敗すると、この国立作業場も閉鎖されることになった。これに対してパリの労働者は蜂起したが、政府によってすぐに鎮圧された（六月暴動）。この六月暴動の影響を受けてヨーロッパの君主達は反動に転じ、「諸国民の春」と呼ばれた自由主義的運動・改革はすべて失敗に終わった。

6. これも基本問題。ドイツ帝国はウンカーを基盤に成り立っており（ビスマルクもウンカー出身である）、彼らは官僚として帝国を支えた。

問3. (あ). イギリス産業革命はまず木綿工業部門から進展した。その中で、技術革新は織布（飛び杼）→紡績機（ジェニー紡績機・水力紡績機・ミュール紡績機）→織布（力織機）という順序で進行したことを押さえておきたい。選択肢をそれぞれ検討してみると、アはアークライト（水力紡績機の発明者）をカートライトに直せばよい。両者は発音・語感が似ているので注意したい。イは18世紀末を18世紀初めに直せば正解となる。ウは「1733年にジョン＝ケイによって」という部分を「1768年にアークライトによって」とすればよい。ジョン＝ケイは飛び杼を発明した人物である。エに誤りはない。オの説明内容はミュール紡績機のものであるが、ミュールとは駒馬を意味する言葉で人名ではなく、ミュール紡績機の発明者はクロンプトンである。

(い). 問2の1の解説を参照のこと。

(う). エンゲルスはマルクスとともに『共産党宣言』の著者として問われるか、この問題のように『イギリスにおける労働者階級の状態』の著者として問われるパターンが多い。後者は、イギリスの労働者階級が、急激に人口が増加した都市の中で、いかに悲惨な生活を送っているかについて詳細に述べた書物で、滞英経験に基づき、1845年に出版された。

(え). 選択肢の内容を丁寧に吟味すれば、簡単に解ける問題。産業資本家は産業革命の進展によって台頭し、1848年以前には労働者（=選択肢オのプロレタリアート）と提携して旧勢力と敵対していたが、1848年以後は保守化して旧勢力と提携し、労働者と対峙するようになった（それだけ労働者が1つの勢力として成長してきたと捉えてよい）。イギリスの場合、1832年の第1回選挙法改正で、他の勢力に先がけていち早く選挙権を獲得したのがこの階層である。ちなみにジェントリとは貴族と農民の中間に位置する地主で、17世紀半ばのイギリス市民革命で活躍した階層である。商業資本家は絶対君主の推進する重商主義で活躍した特權大商人たちのことをさす。金融資本は産業資本と銀行資本が融合した独占資本のことをさし、19世紀後半から20世紀にかけての帝国主義の時代の特徴である。

(お). 基本問題。問2の5の解説を参照のこと。

(か). 1848年にフランスで二月革命が起こった背景として、問題文にあるように、選挙法改正運動と改革宴会、これを弾圧した首相ギゾーをワンセットにして覚えておこう。

(き). 基本問題。七月革命と二月革命の違いを改めて復習しておくこと。

(く). これも基本問題。ドイツ統一以前のプロイセン王国の東半の領土がちょうどエルベ川以東に当たり、この地ではウンカーによる前近代的なグーツヘルシャフト（農場領主制）によって市場向け穀物が大量に生産され、西ヨーロッパ諸国、とくにイギリスに輸出していた（だからこそプロイセンはナポレオンの大陸封鎖令により経済的打撃を受けたのである）。

(け). ドイツ関税同盟は、イギリス資本主義に対抗してドイツの経済を保護するために、プロイセンが中心となって1834年に結成されたもので、オーストリアは当初から排除されていた。

この関税同盟の結成に尽力したのが、ドイツの経済学者で保護関税貿易を主張したフリードリヒ＝リストである。

MEMO

19章 アメリカ合衆国の発展

問題

【1】

解答

- A イ. ナポレオン ロ. ミシシッピ以西のルイジアナ
ハ. ジェファソン=デヴィス ニ. ホームステッド ホ. リッチモンド
B あ. c い. b う. a え. d お. b か. c き. d く. c
C (1) c (2) (i). ゲティスバーグ (ii). リー

解説

- A. イ. フランスがナポレオンの指揮下で1796年から1815年までに行った対外戦争の総称がナポレオン戦争である。アメリカ合衆国はこの戦争に対して中立の立場を採った。
- ロ. ミシシッピ川以西のルイジアナは1763年のパリ条約でフランス領からスペイン領に代わった。1800年にフランスが奪回、1803年にアメリカ合衆国に売却された。
- ハ. ジェファソン=デヴィスは奴隸制維持・州権主義を主張する南部11州が結成したアメリカ連合国の大統領となった。
- ニ. 北部が発した法律で、公有地に5年間定住・開拓した者には160エーカーの土地を無償で与えるとしたもの。劣勢の北部が西部農民の支持を獲得する目的で発した。
- ホ. リッチモンドはヴァージニア州にある都市。
- B. [あ～か]. アメリカ合衆国の西方拡大（西漸運動）に関する必須年代であるため、地図で拡大過程を追いかけながらすべて覚えておくとよい。
- [き]. 奴隸制に反対して共和党が結成されたのが1854年のこと。1860年に共和党初の大統領としてリンカンが当選した。
- [く]. フロンティアとは1平方マイルあたりの人口が2～6人の地をさすが、1890年にはフロンティアの消滅が宣言された。
- C. (1). 織機とは綿花からその種子を取り除く機械である。
- (2). ゲティスバーグでの戦いは南軍リー将軍率いる7万の兵と北軍9万の兵がぶつかり、4万5千人の死傷者がいる激戦となった。

【2】

解答

- 設問1 a. ジェファソン b. ミズーリ協定 c. 共和 d. リンカン
e. アメリカ連合国 f. リッチモンド

設問2 イギリスは、武器や雑貨などをアフリカに送り、アフリカからは黒人奴隸を北アメリカ植民地や西インド諸島に送って売却し、植民地からイギリス本国へは砂糖やたばこなどを送る三角貿易の一環として奴隸貿易を行った。(100字)

設問3 大農園－プランテーション 生産物－タバコ・藍

設問4 ロック

設問5 北部では、産業革命が進行して工業が発達していたため、イギリス製品から自国商品の市場を守るために保護関税貿易を主張したが、南部では、綿花のプランテーションが発達し、綿花を輸出してイギリスから工業製品を輸入していたため、自由貿易を主張した。(118字)

設問6 ホームステッド法 公有地に5年間定住して開墾すれば、160エーカーの土地を無償で与えるとした。

設問7 ほとんどの黒人は土地を持っておらず、シェアクロッパーといわれる小作人となって、土地・農機具・住居などを地主から借り受け、収穫物の2分の1から3分の2を地主に納めたため、貧しい暮らしが続いた。(95字)

解説

設問1. a. 1775年にレキシントンとコンコードで武力衝突が起こり、アメリカ独立戦争が始まった。翌1776年1月にトマス=ペインが出した『コモン=センス』は、独立運動を盛り上げ、7月4日に独立宣言が出された。独立宣言の起草者の1人であるジェファソンは、のちに第3代合衆国大統領（任1801～09）に就任した。

b. ジェファソンが1803年にフランスのナポレオンからルイジアナを買収すると、合衆国の領土は倍増した。以後、人々は西部の開拓に邁進した。当時の合衆国南部の奴隸州では、奴隸制が存続し、自由貿易を主張していた。一方北部の自由州では、奴隸制に反対で、保護貿易を主張していた。西部に新しい州が誕生するたびに、その州に奴隸制を認めるかどうかで南北が対立した。1820年のミズーリ協定で、ミズーリ州は奴隸州とするが、以後、北緯36度30分以北は自由州にすると決めた。

c・d. 1854年に北部を地盤とし、奴隸制に反対する政党として共和党が結成された。1860年に共和党からリンカンが第16代大統領に当選すると（任1861～65），南北の対立は決定的になり、翌年南北戦争が始まった。リンカンは北部を指導し、1862年にはホームステッド法を出して西部の農民の支持を得た。また、翌年には奴隸解放宣言を出した。奴隸解放宣言は、1865年の憲法修正第13条で明文化された。また、1863年にリンカンがゲティスバーグで行った演説で述べた“人民の、人民による、人民のための政治”という言葉は、民主主義の本質を述べた言葉として名高い。

e・f. リンカンが大統領になると、南部11州は合衆国から離脱し、アメリカ連合国を結成した。ジェファソン=デヴィス（任1861～65）を大統領とし、リッチモンドを首都とした。南北の対立は南北戦争となった。当初は南部が優勢であったが、次第に北部に押されるよう

なった。1865年4月にアメリカ連合国(南北戦争)の首都リッチモンドが陥落し、北部の勝利で戦争が終わった。

設問2. 当初は、ポルトガルやスペインが奴隸貿易を行っていたが、17世紀になると、イギリスも奴隸貿易に参入した。イギリスの行った奴隸貿易は、本国・アフリカ・北アメリカ植民地と西インド諸島を結ぶ三角貿易の一環として行われた。本国からは武器や雑貨を送ってアフリカで黒人奴隸を購入した。黒人奴隸は北アメリカ植民地や西インド諸島に送られて売却され、北アメリカ植民地や西インド諸島からは砂糖やタバコなどが本国に送られた。北アメリカ大陸や西インド諸島に送られた黒人奴隸は、プランテーションの労働力として酷使された。

設問3. 北アメリカ植民地では、北部では自営農民による農業や商工業が発達したが、南部では、黒人奴隸を労働力とするプランテーションといわれる大農園が発達した。プランテーションでは、タバコ・藍・米などが生産された。イギリスで産業革命が進展すると、綿花の生産も増大した。

設問4. ロックはイギリスの啓蒙思想家で、主著に『統治二論』(『市民政府二論』)がある。彼は君主が人民の自然権を阻害した場合は、人民はそれに対する抵抗権を持つと考え、イギリスの名誉革命を正当化した。こうした彼の思想は、1776年に出されたアメリカの独立宣言にも影響を与えた。

設問5. 合衆国の北部では、1830年代以降、産業革命が進展して工業が発達してきていた。そのため、良質なイギリス製品から自国の製品の市場を守るために、保護関税貿易を主張した。政治的には、中央政府の権限を強化する連邦主義を採った。これに対して南部では、奴隸制に基づくプランテーションが発達しており、産業革命の進んだイギリスに綿花を輸出し、イギリスの工業製品を輸入していた。そのため、外国製品に關税をかけない自由貿易を主張し、政治的には州の自治を求めた。

設問6. 1862年に共和党政府はホームステッド法を出した。これは、公有地に5年間定住して開墾すれば、160エーカーの土地を無償で与えるとしたものであり、西部の農民の支持を得ることをねらった。また、ホームステッド法により、西漸運動がさらに進展した。

設問7. 1865年の憲法修正第13条でリンカーンの出した奴隸解放宣言が明文化され、68年の修正第14条で黒人の公民権が保障された。また、1870年の修正第15条で黒人の選挙権が保障された。しかし、実際は黒人の参政権を制限するような州法などが作られ、黒人差別はなくならなかった。また、黒人は奴隸から解放されたものの、土地の分与を伴っていなかったため、ほとんどの黒人は土地を持っていなかった。そこで、シェアクロッパーといわれる小作人となって、土地・農機具・住居などを地主から借り受け、収穫物の2分の1から3分の2を地主に納めた。黒人の貧しい暮らしは続き、経済的地位は改善されなかった。

MEMO

20章 植民地化されるアジア

問題

【1】

解答

1. b・d 2. b・c
3. (ア). c (イ). a (ウ). f (エ). k (オ). d (カ). i (キ). b (ク). l
(ケ). g (コ). h
4. ③ 5. ①. d ②. c ③. e ④. b ⑤. a 6. b
7. b・c・e・f

解説

1. イギリスの機械織り綿製品の流入で、インドの手織り綿業は壊滅的打撃を受けるのでbは誤り。イギリスの東インド会社が一切の商業活動を停止するのは1833年であるのでdは誤り。

2. イギリスがコンバウン（アラウンパヤー）朝ビルマを滅ぼすのは1885年で、翌年にビルマを併合するのでbは誤り。ボルネオ島の南部はオランダ領でありフランス領ではないのでcは誤り。

3. (ア). イギリス東インド会社は1600年に設立された。

(イ). 語群から該当するのはaの鉄道しかないのですぐに判断できるだろう。

(ウ)～(オ). 東インド会社のインド人傭兵（シパーイー）による反乱では、ムガル皇帝の統治権復活が求められた（当時のムガル帝国は首都デリー周辺を治めるのみであったが）。この反乱を鎮圧したイギリスは最後のムガル皇帝をビルマに追放し、ここにムガル帝国は滅亡した。

(カ)・(キ). 1877年にヴィクトリア女王がインド皇帝を兼任して成立したインド帝国内には、イギリスの直轄地と約550近くの藩王国が併存した。イギリスは従来からの藩王国を残存させ相互に抗争させることで、インド人による統一的な反イギリス運動を押さえようとした。

(ク)～(コ). 全インド国民協議会は稳健派のパネルジーを中心に結成された組織で、人種差別政策などに反対しイギリスの政策に抵抗した。これに対してイギリスは親英的なインド人によるインド国民会議を組織した。しかし、ベンガル分割令を契機にインド国民会議内では急進派のティラクが台頭し、反英組織に変質していった。これに対して、イギリスは新たな親英組織として全インド＝ムスリム連盟を結成した。

4. 1757年のプラッシーの戦いはムガル帝国のベンガル太守とイギリス東インド会社軍の戦い。

5・6. プラッシーの戦いでベンガル地方→マイソール戦争で南インド→マラーター戦争で中部インド（デカン高原）→シク戦争でインド北西部（パンジャーブ地方）をイギリスが制圧した。これらの戦いはインドのどの地域をイギリスが制圧する際のものであるかを区別して覚えること。

7. 1905年のベンガル分割令に反対して、1906年の国民会議カルカッタ大会ではティラクら急進派は四綱領を示し、この時点でインド国民会議は明確に反イギリス的となった。

【2】

解答

- (a). 4 (b). 2 (c). 1 (d). 3 (e). 2 (f). 3 (g). 2 (h). 3 (i). 3
(j). 3 (k). 1 (l). 4 (m). 2 (n). 2 (o). 1 (p). 3 (q). 4 (r). 1
(s). 4 (t). 1

A. 林則徐 B. 望廈 C. 黃埔 D. 広西 E. 洋務

解説

(a)・(b)・A. イギリスは銀を支払い茶を購入したため、銀の中国への流出に苦慮した。そこで征服地のインドで栽培させたアヘンを中国へ密輸し、銀の回収をはかったのが三角貿易である。これにより中国ではアヘンの吸引が広がり、アヘンの密貿易によって銀が国外へ流出していった。林則徐は1838年に欽差大臣に任命され、1839年に広州に着任してアヘン貿易を取り締まった。

(c)～(e). アヘン戦争（1840～42）中の1841年、広州郊外の三元里において反英武装組織として結成された平英団がイギリス軍を攻撃する事件が発生した。平英団は清側からの命令で解散したが、のちの民族運動に大きな影響を与えた。

(f)・(g)・B・C. アヘン戦争の講和条約である南京条約では①香港のイギリスへの割譲、②5港の開港、③公行の廃止が決められた。清朝は1844年にはアメリカと望廈条約、フランスと黄埔条約を結んだ。これらは南京条約とほぼ同じ内容であった。

(h)～(j)・D. 南京条約の改定とさらなる貿易拡大を望んだイギリスは、広西省での宣教師殺害事件で清と交渉中のフランス（ナポレオン3世時）を誘い、1856年にアロー戦争を開戦した。1858年の天津条約は批准にいたらず、最終的に1860年の北京条約で講和した。北京条約では①九竜半島南部のイギリスへの割譲、②天津を含めた11港の開港、③外国公使の北京駐在の承認、④キリスト教布教の自由などが決められた。

(k)～(o). 洪秀全が組織したキリスト教系宗教団体の上帝会が中心となり、太平天国が建国された。上帝会は、中国南部の広西省金田村で兵を挙げ北上して武昌を占領した。その後は長江の流れに沿って下り南京を占領して天京と改称し、ここを太平天国の首都とした。

(p)・(q). 代表的郷勇として曾国藩が率いた湘軍、李鴻章の率いた淮軍、左宗棠の楚軍がある。また欧米人指揮官による中国人義勇軍として常勝軍も太平天国鎮圧に活躍した。その指揮官がアメリカ人のウォードやイギリス人のゴードンである。

E・(r)～(t). アヘン・アロー戦争の敗北で技術的劣勢を知った清で行われたのが洋務運動である。これは西洋技術を積極的に導入して清の近代化をめざしたものであった。その結果として同治帝時代には一時的な安定を回復した（同治の中興）。しかし、この運動のスローガンである「中体西用」が示すように、あくまで皇帝專制体制を基本とした近代化であった点が、この運動の限界といえよう。

W2J
高2東大世界史



会員番号	
------	--

氏名	
----	--